

“ ROTARY : MAKING A DIFFERENCE “

西条 RC 2017-18 テーマ「足元を見つめなおしてみよう！ロータリーに変化を」

国際ロータリー第 2710 地区 グループ 8

西条ロータリークラブ 週報 No.2599 2017年9月7日 9月第1例会



ロータリー：
変化をもたらす

本日のプログラム <西条RCの歴史を振り返り(ハンマウム福祉会よもやま話) 本田逸男 会員 >

8/31 会長時間 金好会長



皆さんこんにちは。まだまだ暑い日が続いています。お身体の方は大丈夫でしょうか。ちなみに熱中症による救急搬送が多い気温・湿度は気温 32 度湿度 60%前後だそうです。まだまだこの状況は続きそうですので充分ご注意ください。本日の卓話は先週に続き新入会員卓話であります。坂田会員十分な時間ご用意しておりますので宜しくお願い致します。

さて、本日は 8 月 27 日ホテルグランビアで開催されました地区指導者育成セミナーに武島幹事、新開ロータリー財団委員長と出席してまいりましたのでご報告させていただきます。

まず最初に、会員増強委員会カウンセラー西村栄時様が「クラブの活性化を目指して！更に輝きを増すために」という演題でお話されました。謙虚で誇り高いロータリアンの集う堅実な会員基盤を作り、ロータリアンは恕の心を持つ、即ち人生を歩むうえで一番大切な事は「恕」己の欲せざるところ人に施す事なかれ！と話されました。「入会したい」「会員であり続けたい」と言われるクラブ創りを目指して会員増強を目指しましょう。

その後、ローターアクトの活動と展望・世界に羽ばたけ米山奨学生の講演があり、「クラブの柔軟性」に関してのパネルディスカッションが行われました。そのなかで例会数の変更や出席要件など例会運営の変更を今年度から行っているクラブ数などが発表されましたのでご報告致します。例会数を変更したクラブは地区内 73 クラブのうち 25 クラブ(34%)ありました。例会の出席要件の変更 4 クラブ、正会員以外の会員種類を増やしたクラブ 5、これは家族会員・法人会員・二人目会員・名誉会員などです、入会金を廃止したクラブ 17、名称変更したクラブ 46 など各クラブで柔軟性を取り入れておられました。最後に例会数変更した 25 クラブの内訳を紹介させていただきます。祝日のある週は休会 17 クラブ、月 2 回の例会 2 クラブ、月 3 回の例会 1 クラブ、原則月 1 回を休会 1 クラブ、最終例会は休会 1 クラブ、第 5 例会を休会 1 クラブ、都度理事会で決定 3 クラブ(重複回答あり)

皆さん、どう感じられましたでしょうか？

◆◆◆ プログラムの予告 ◆◆◆

9 月 9 日(土) 家族例会(銀河クルージング)

9 月 14 日(木) 9 月 9 日へ振替

9 月 21 日(木) 例会休み

9 月 28 日(木) プログラム委員会

10 月 5 日(木) 米山月間にちなんで 東広島 RC 島崎高志 様

★Memo★



みなさん、こんにちは。

4月に入会させていただきました坂田和紀と申します。本日は新入会員卓話ということで、貴重な30分をいただきありがとうございます。

私は一応サラリーマンですので、経営者の皆様のような波乱万丈の人生とはいきません。どちらかといいますと地域密着型の活動をしておりまして、地味なお話になろうかと思いますが、クラブの中では若手になりますので、若いなりに30分話してみたいと思っております。今日は勤務先であるしまなみ信用金庫の紹介と、生まれ故郷の尾道の紹介、それから私自身の失敗談やエピソード、大のカープファンですのでカープの元選手の話などを織り交ぜながらご紹介できればと思っております。立ち往生することもあるかもしれませんが、精一杯努めたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

まずはしまなみ信用金庫についての紹介です。

業種としては金融業に当たりますが、クラブ会員の皆さんは、経営者、企業の幹部でいらっしゃいますので、皆さんを前に金融機関の業務を改めて説明する必要はないかと思っております。

今日は自分が話しやすい内容を2つ選びました。1つ目が「銀行と信用金庫の違い」、2つ目が「11月に予定されております県内4つの信用金庫が合同で開催するビジネスフェア」、についてご紹介したいと思います。ビジネスフェアについては、ガイドブックを用意させていただきましたが、数の都合上、各テーブルに1冊ずつご用意させていただいておりますので、回覧いただければ助かります。

まずは「銀行」と「信用金庫」の違いですが、業務としては基本的なところは同じことをやっております、特に違いはありません。

違いとしては、組織体の違いがあげられます。

銀行は株式会社ですが、信用金庫は協同組織金融機関といまして、農協さんと同様の協同組合となっておりますので、表面上は非営利法人、法律上は儲けすぎにはいけない団体として定められています。

営業面におきましてもいろいろな制約があります。今日は3つ取り上げたいと思いますが、「営業エリアの制限」、「融資先の地域の制限」、「信用金庫の会員か非会員か」といった、銀行にはない様々な制約が設けられています。

具体的にお話ししますと、まずは「営業エリアの制限」ですが、信用金庫の場合、営業エリアが監督官庁から厳しく定められておりまして、信用金庫同士があまりバッティングしないように棲み分けがされています。

広島県内には現在4つの信用金庫がありますが、広島市内を中心に県内の西側が広島信用金庫さん、南側が呉信用金庫さん、北側が広島みどり信用金庫さん、東側がしまなみ信用金庫、と、ざっとではあります、同じ業界で競合しないよう配分されています。

そういった意味では、ご当地の西条は、3つの信用金庫が同居している県内唯一の街であるといえます。

次に、「融資先の地域の制限」とは、融資をご利用いただけるお客様は、その信用金庫の営業エリアに住んでいらっしゃるか、もしくは勤務されている方に限られる、というものです。

しまなみ信用金庫の営業エリアが、西はここ東広島市までとなっておりますので、東広島市に住んでい

らっしゃる、もしくは商売をされていらっしゃる方へは、ご融資が可能です。これは、それぞれの信用金庫が、地元で預金していただいたお金は、地元の方へご融資しなさい、地元のお金を地元で活用することによって、地域の発展に貢献しなさい、という趣旨であると理解しています。

その他にも、融資をご利用いただく際は、原則として出資を購入いただいて信用金庫の出資者になっていただく、農協さんでいえば組合員になるというイメージでしょうか、信用金庫の会員になってください、という取り決めがあります。

次に、県内4つの信用金庫が合同で開催するビジネスフェアについて紹介させていただきます。

今年で12回目になりますが、毎年秋に開催しておりまして、毎年1万人の方に来場していただいており、今年も11月9日に広島グリーンアリーナで開催する予定です。

先ほど県内には4つの信用金庫が棲み分けしていることをお話ししましたが、県内のこの業界では、やはり広島信用金庫さんが兄貴分のような存在でありまして、12年前に音頭を取っていただいてスタートした経緯があります。

2つの柱で構成されておりまして、1つ目は、4つの各信用金庫のお客様にブース出展していただく、もう1つは、ビジネスフェアの事務局が、百貨店、スーパー、ホテル、商社など比較的規模の大きいバイヤー企業を招待しておりまして、ここへ信用金庫のお客様に売り込みに行っていただく、という構成になっています。

ブース出展される約300社の企業様はすでに決まっております、現在はそれぞれの信用金庫の営業担当者が県内のあちらこちらで、皆さまのテーブルにありますガイドブックをもって自分の担当企業を訪問し、「この出展企業さんと商談をしてみませんか」と来場誘致をしている段階です。預金や融資のお話だけではなく、お客様の商売にも直接お役に立ちたい、という気持ちで取り組んでいるところです。

東京などで開催される一般的なビジネスフェアでは、ブースの出展料が10万円や20万円必要だったり、商談が成立したら手数料を払わなければならない、入場料も必要、といった話を耳にしたこともあります、この信用金庫のビジネスフェアでは、ブースの出展料は無料、入場も無料、商談が成立してもマッチング手数料はいただきません。著名人を招いたり、パネルディスカッションをしたりという、派手さはありませんが、とにかくお客様のお役に立ちたい、という姿勢で取り組んでいるところです。どなたでも入場できますので、もし興味のある方がいらっしゃいましたら、遠慮なく声をかけて頂ければと思います。

しまなみ信用金庫の話はこれぐらいにしておきまして、続いて個人的なことではありますが、エピソードも交えながら自己紹介をさせていただきたいと思います。

昭和47年になりますが、私は尾道の対岸にある向島で生まれました。

尾道を少し紹介させていただきますと、人口は14万人を少し切るぐらい、「坂の街」「文学の街」「映画の街」として知られています。

文学では林芙美子、志賀直哉などが一時住んでいたことがある街、映画では、小津安二郎(おづやすじろう)監督、女優の原節子さんの「東京物語」という作品や、「転校生」「時をかける少女」「さびしんぼう」といった尾道三部作の大林宜彦監督が有名な街、といったところでしょうか。

その他に尾道出身の有名人としては、女優の東ちづるさん、政治家や野球選手と一緒に話題になりました山本モナさん、歌手のポルノグラフィティなどがあげられるところです。

新しい話題としては、平成27年、28年に日本遺産に認定されたことも新しい話題です。

日本遺産がどういうものか、少し調べてみたのですが、「地域の歴史的な魅力や特色を通じて、文化・伝統を語るストーリーを、文化庁が認定するもの」、となっています。世界遺産や日本の指定文化財とどう

違うのか、という点ですが、世界遺産や指定文化財は、文化財を保護することを目的としていますが、日本遺産はこれらと違って、文化財の保護を目的に何かを規制をするというのではなく、地域に点在する遺産を、「点」ではなく「面」として情報発信することで、地域活性化を目的としているそうです。

ちなみに尾道は2つのストーリーが日本遺産として認定されていて、まず1つ目のストーリーですが、「山と島に囲まれ、中世の時代に開かれた港を中心に繁栄し、限られた生活空間の中に多くのお寺や庭園、住宅が作られ、入り組んだ路地や坂道もある箱庭的な街」というストーリー、2つ目のストーリーが「戦国時代、日本最大の海賊と言われた村上海賊。理不尽に船を襲い金品を略奪する海賊とは対照的に、村上海賊は掟に従って航海の安全を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支える海の活動を生業とした」というストーリーです。

私自信、今年の4月に西条支店に赴任してくる前は尾道市内の店舗に4年間おりました、その間に日本遺産の認定を受けたわけですが、本当に目に見えて観光客が増え、とくに土日は、遠方から来た観光客の車が駐車場に入れずに立ち往生するといった状態も見られるようになりました。日本遺産認定の威力はすごいなど、直接肌で感じたところです。

話を自己紹介に戻したいと思います。

今年で45歳になりましたが、家族は妻と中学3年生の娘、の3人家族です。

趣味は野球観戦とラグビー観戦、中学では野球部、高校ではラグビー部に所属していました。

大学は広島修道大学へ通いましたが、大学祭実行委員会に所属して、大学祭のいろんなイベントの企画やスポンサーを集める活動などを行っていた一方、学業の記憶はすみません、あまりありません。

父親はもともと、向島にあった日立造船に勤めていましたが、昭和50年代から60年代にかけて激しい造船不況に見舞われた影響で、経済的にはあまり余裕がありませんでしたので、親からアパートの家賃分ぐらいは仕送りをしてもらっていましたが、それ以外の生活費、学費は自分で何とかしなければ、という状況でした。

アルバイトだけではとても足りませんでした、幸いにも当時の日本育英会から毎月数万円の奨学金を受けられることができ、生活費・学費の足しにしていました。日本育英会の奨学金は社会人になってから20年かけて返す仕組みになっていますので、2年前に無事全額返すことができホッとしているところです。奨学金には本当に、感謝しています。

西条ロータリークラブに入会して、活動の一つに奨学金の事業があると知ったときは、ロータリーってこんな活動もしているのか、と少し驚き、感動したといえれば言い過ぎかもしれませんが、奨学金のありがたさを身をもって体験した自分としては、とてもすばらしい事業だと思っています。

話を大学時代に戻したいと思います、アルバイトが中心でした。

一番印象に残っているアルバイトは、広島市内でゴールデンウィークに開催されるフラワーフェスティバルのステージで裏方を手伝うというものでした。

大学の先輩から「とりあえず行ってくれ」、と頼まれて現場に行ったのですが、そこで雇い主として現れたのが、カープの左投げの元ピッチャー、渡辺弘基さんでした。すでに現役を引退されてだいぶ時間が経っていたとはいえ、目の前にカープの元選手があらわれて一緒に仕事ができると思うと、本当に興奮しました。

カープの初優勝が昭和50年ですので、その当時3歳だった私は直接の記憶はないんですが、古葉監督が初優勝の胴上げの後、「影のMVPは渡辺弘基だ」とおっしゃっていたぐらい、初優勝の年に中継ぎで活躍したピッチャーです。

渡辺さんは現在、広島ホームテレビの「あっぱれ熟年ファイターズ」にメインのMCとして出演されてい

ますので、若い人にはこちらの印象が強いかもしれません。

渡辺さんは現役を引退後、「パーティー&プロデュース」、というイベントの企画、運営をする会社を経営されていたりして、フラワーフェスティバルでは一つのステージの運営を丸ごと任されていたため、ここで出会うことになりました。

この日のアルバイトがきっかけで渡辺さんと知り合い、その後もいろんなイベントの裏方を手伝う仕事に呼ばれるようになりまして、仕事が終わった後は必ず食事に連れて行って下さり、たらふく食べさせてくれる、若い人をとててもかわいがってくれる方でしたので、本当に今でも感謝しています。

現在、広島市内の皆実町(みなみまち)にイズミのゆめタウンがありますが、そこは私の大学時代は JT のグラウンドがありまして、そこで小学生を対象にカープの現役選手による野球教室が開催されるので、裏方として手伝う、という仕事がありました。

渡辺さんと、司会を担当する女性タレントの、イニシャルで M さん、そして私、の 3 人が裏方です。ちなみに M さんとは、松本ゆみこさんではなくて、もっと前はアイドルを目指していたような方で、当時 20 代の本当にかわいい方です。野球教室には、後に監督になる当時は現役バリバリの野村謙二郎さん、そしてチャンスに強い左バッターの西田真二さんが来られていました。

このときは西田さんと話をする機会が多く、西田さんの方から、「坂田君、今日飲みに行こうか？」と誘ってもらえて、自分もまさかカープの現役選手と飲みに行けるなんて夢にも思わないことだったので、すぐに「行きます」と返事をしたんですが、西田さんは当時、たしか離婚されて独身でしたので、時間があったんだと思います。

続けて西田さんから、「坂田君、今日司会で来てくれているあの M さんも、一緒に行けるか聞いてみてくれ」と頼まれまして、3 人で飲みに行くことになりました。

今から思うと西田さんにとっては、M さんがメインだったと思いますが、さあ、お開きにしようか、となったときに、西田さんが「坂田君、タクシーで家まで送ってあげよう」と言ってくれましたので、西田さんと M さんと私の 3 人でタクシーに乗って、私は当時、安佐南区に住んでいたのですが、送ってもらいました。

自分のアパートが近づくにつれて、「あれ、僕を下してくれたあとは、西田さんと M さんの二人はどうなるのかな？」と少し気になったんですが、私も当時は初心な大学生でしたので、妙にこっちがドキドキしながら、いやいや、ここはみんな大人だから触れちゃいけないとか、本当にドキドキしたのを覚えています。私を送ってくれたあと、2 人がどうなったかは、そっとしておきたいと思います。

続いて平成 7 年にしまなみ信用金庫に就職してからのお話ですが、2 年目の時にお酒に関する失敗がありまして、今日お集りのみなさんの武勇伝にはかなわないと思いますが、反省の意味も込めましてお酒の失敗談をお話したいと思います。

就職して 2 年目の 12 月です。職場の忘年会が終わったことですが、三原から尾道へ帰ろうとする電車の中、寒い冬に電車の椅子が暖かいとどうしても眠気を我慢できなくて、ついウトウトすると、ハッと我に返ったときは尾道駅をすでに通り過ぎて福山駅まで行ってしまい。その日はやれやれという感じで、タクシーで向島の家まで帰りました。

その翌月ですが、今度はいくつかの支店が合同で 60 人くらいで新年会をやる、ということになりまして、その幹事と司会を引き受けることになりました。

まだ 2 年目ということもあり、緊張しながら必死でしたので、食事に手を付けることができない状態で、たくさんの先輩から、日本酒をすすめられるまま勢いよく次々飲んでいきますと、結構酔ってしまいました。それでも無事にお開きとなって、忘年会の時と同じように電車で帰ろうと思い、三原駅から電車に乗り、ふ

っと目が覚めると、電車のドアがバーっと空いて、反射的に「しまった、降りないと」と思い、あわてて電車から飛び降りました。

相当酔ってしまって、「あっ、駅が前回より暗い、これは福山駅を通り越して東福山駅まで来てしまった。今日もタクシーを拾って帰るしかない。」、とあって、タクシーを拾う為に駅の前にあった道路を歩き始めました。

「あれっ、なかなか車が通らないな、もう夜中の 12 時に近いし、とりあえず歩いていけばいつかタクシーが通るだろう」と考えながら歩いていました。

でもなかなかタクシーが通りません。まだかな、まだかな、と思いながら歩いていると、目の前に道路の行先を示す看板が見えてきました。

なんとそこには、「相生」「姫路」という文字があったのです。そうです、三原から運が良いのか悪いのかわかりませんが、兵庫県の相生方面までいく直通の普通電車に乗っていたのです。

「うわあ、やってしまった」と思いましたが、どうすることもできません。周りは山に囲まれているようなところで民家も店もなく真っ暗です。おそらく街はずれ、どこかの幹線道路だったんだと思います。

当時は携帯電話がありませんでしたので、まず公衆電話を必死で探しました。どんどん歩いていくと、暗闇の中に運よく、こうこうと光る公衆電話のボックスを見つけることができました。

備え付けの電話帳を急いでめくって、地元のタクシー会社へ片っ端から電話を掛けましたが、時間が遅いからか、どれも電話が鳴り続けるだけで、だれも電話に出てくれません。その日の営業は終わっていたようです。

もうどうすることもできない。このまま何もない真っ暗な所にいても仕方ないし、とにかく明かりのある街まで歩くしかないと決意して、歩き始めました。

途中、トンネルがあり、その中は歩道がなく車の車道があるのみです。でも、もう引き返すことはできないと思って、トンネルを通ろうと決心しました。なるべく左側のスミの方を歩いていたんですが、トラックが右肩のすぐそばをどんどん通過していきます。トラックの運転手が少しハンドルを誤れば、ひかれてもおかしくないぐらいすぐそばを通っていくので、もしかしたら死ぬかもしれない、新聞に載るかもしれない、と思いました。トラックの運転手も私が歩いているのを見てびっくりしたと思います。

やがて歩き続けると川沿いにたどり着き、さらにどんどん歩くと、やっと街にたどり着くことができました。道路の標識には「赤穂」とありました。兵庫県の赤穂です。真夜中なので街は暗いけど、民家がある、これは何物にも代え難い、安心感を私に与えてくれました。それからは足取りも軽くなり、夜中というか明け方というか 3 時半か 4 時ごろだったと思いますが、コンビニにたどり着いて真夜中の旅は終わり、始発の電車でも尾道に帰ることもできました。この原稿を準備するにあたり、あらためて調べてみると、相生から赤穂までは 15 キロぐらいの道のりですが、たくましく成長した 15 キロだったと思います。

さて、話が脱線してしまいましたが、ここからは仕事の話に戻したいと思います。

私は現在 17 名の部下を預かっています。その中には年上の方もいらっしゃるんですが、やはり若い子が圧倒的に多いです。年齢層としては中間層が少なく、私たちが 20 代だったころと比べると直接教えてくれる中間層の人数が少ないので、若い子もかわいそうだな、と思うこともあります。しかし昔と比べると、どちらかというとやはり受け身の子が多いな、と感じることもあり、そういう若い子を育てることが、今の私に与えられた最も重要な役割だと思っています。とにかく今の私の一番の関心事は、20 代の若い子を育てることです。

世間では、新卒で就職した子のうち、3 年以内に 3 割が辞めていって転職すると言われてはいますが、しまなみ信用金庫も例外ではありません。

私は、バブル崩壊後の就職氷河期に採用してくれた今の勤め先に感謝することはあっても、他社へ転

職しようなど全く考えたことはありませんが、しかし今の若い子は全員とは言いませんが、転職に対するハードルはかなり低いように感じます。

ただしこの状況を「最近の若い子は・・・」という一言で片づけるつもりはありませんし、私たちを見習え、と言うつもりもありません。

人は環境や生き立ちによって考え方が違ってくるのは当たり前ですから、同じ方向を向いてもらうようになっていくのが大変なのは当然のことです。これを認識した上で、自分と違う意見にも耳を傾けて、勝手なレッテルを張るのではなく、職場を一つにまとめて全員が同じ方向を向いて仕事ができるような職場環境をつくること、これが大切だと思っています。

私も昔は、受け身がちな若い子、積極的になれない若い子を見ていると、正直、「どうしてなんだ」とイラっとくることもありましたが、でも今は違います。

というのも、今から6年前、私は今の西条支店の次長として働いていたんですが、このとき一緒に仕事をさせていただいた当時の支店長から、「坂田君、若い子を自分の本当の子どもだと思って、自分の子どもと同じように接すれば、腹も立たないし、落ち着いて教えてあげることができるよ。自分の子どもだったら、失敗しても怒らないだろう。次は成功するように、長い目で見てその子が成長するように、と願って接することができるじゃろう。」と諭され、この言葉が今でも頭から離れません。

子は親の鏡という言葉もありますが、今の自分には、「部下は上司の鏡」だと思って、若い子と接するように心がけています。

それからもう1つ、若い子に向かって、「どんどん失敗してこい」と言えるようになりました。お客様と直接接する、交渉をする、営業をする、ということは、机の上で勉強できることではありません。自分でまずはチャレンジして、失敗を繰り返してこそ、自分の頭で考えるようになり、自分の中で引き出しが増えていく、失敗すればするほど自分の引き出しが増えて活動範囲が広がっていく、失敗していないというのは、何もしていないことと同じことだよ、と伝えています。

職場ではこれからも、若い子とお互いに切磋琢磨しあって、お互いに成長できるように一緒に頑張ろう、というスタンスで取り組んでいきたいと思っています。

ただ、人間の心というものは、とくには私は、ですが、心が形状記憶合金のように、放っておくとすぐに悪い方へ、楽な方へ、自分勝手な方へ戻ってしまうと思います。だからこそ、良き先輩や指導者、同僚から、心にとって良い話を何回も何回も聞いて、心を整えることも意識していかないといけないと思っています。

最後になりましたが、西条ロータリークラブについてですが、私は、ここは運のいい人が集まっているところだと思っています。ここで言う運のいい人とは、「自分のことよりも他人のことを考えることができる人」「動き回る人」だと思っています。ロータリーはそのような運のいい人とお付き合いができる、そして、自分が今まで接したことがない世界の話を聞くことができ、社会へ奉仕ができると同時に自分自身の成長にもつながるところだと感じています。

私自身、若輩者ですが、クラブの諸先輩方から、人生について、経営について、世間についてご指導いただき、ときには真剣にときには楽しく、ロータリーの活動に取り組んで参りたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。本日はこのような機会をいただき、今晚は本当に美味しいお酒が飲めそうです。お時間をいただきありがとうございました。

おめでとうございます。

第10回米山功労賞

本田会員



出席報告

会員数	38名	出席者	29名
欠席者	7名	免除者	2名
来訪者	1名	出席率	76.32%
8/17の欠席	6名	マークアップ	5名
8/24の欠席	9名	マークアップ	8名
		通算出席率	99.12%

お客様

入会予定者

佐々木 伸治様

幹事報告

○地区大会（岩国市）出席依頼

○米山功労賞受賞報告 第10回 本田 会員

お祝時間

○本人誕生日

広幡 会員 S.45.9.14

○ご婦人誕生日

岡田 清子 様 9.15

菅生 美希 様 9.14

奥本 麻由美様 9.25

○結婚記念日

高原 会員 S.62.9.6 (30年)

○入会記念日

須賀 会員 H3.9.26

○会社創立

上田 俊二 会員

(有)西条タクシー S.36.9.7

三木 会員

三木医院 S.46.9.1

委員会報告

○例会終了後家族例会の打ち合わせ

親睦委員会

スマイルボックス

○米山功労者 [10回目] 本田会員

○入会記念日 上田 裕子会員

○会社創立記念日 藤原会員

○100%出席おめでとうございます。

15年 上田裕子会員

○「全国高等学校野球大会にて広陵高校準優勝おめでとう。感動をありがとう。」佐々木会員

西条ロータリークラブ

創立 1964年5月11日

例会日 毎週木曜日 12時30分～13時30分

例会場 〒739-0024 東広島市西条町御菌宇田城寺 6950-2

グランラッセレ東広島

TEL(082)423-3000 FAX(082)423-8649

事務所 〒739-0025 東広島市西条中央 7-23-35

東広島商工会議所会館 3F

TEL(082)420-0320 FAX(082)420-0319

URL:<http://www.saijo-rc.jp>

E-mail:saijorc@eagle.ocn.ne.jp

会長 金好 康隆

副会長 須賀 宏

幹事 武島 靖爾

副幹事 奥本 哲之